「横手の雪とクリスマス」(2017.12.17)

横手の雪は大変だと伺っていたが、大平山の麓で育った私はそんなに苦にはしていなかった。雪は遊びの世界を広げてくれるものであり、その白い花びらのような美しさに時として魅入ることもあった。9 月頃石坂洋次郎文学館を訪ねたが、そこに掲げられているある小説の一文に引き付けられた。シンシンと 2 日・3 日、夜昼降り注ぐ雪の舞いに心が熱くなる、そんなことを書いてあった。何か急に親しみを感じて、彼が一つだけ残したい作品は？と言われたら躊躇なくあげるという『麦死なず』を後日購入した。

だが、さすがに雪は大変だ。11 月だというのに一夜にして 20 センチを越えて降る。特に教会は敷地が広いから一瞬滅入ってしまいそうである。だが、そうした思いをさせないようにと教会は配慮し、朝早く高昭工務店が駐車場を除雪してくれる。また、新品の除雪機が備えてある。M 兄が操作方法を伝授してくれたので、これまで軽快に安全に除雪できている。教会周辺の雪囲いは T 兄がしてくれた。雪を通して何か教会の皆さんの温かさが伝わってくる。

雪というと前任者の K 先生から流雪溝組合の幹事の仕事を引き継いだ。ここは本町 3 号線組合といい、30 軒ほどが利用可能になっている。6 班に分かれていて、各班長さんに集金をお願いした。除雪車が出動した日に流雪溝に水が流れ、時間を決めて各組合員が雪を投げ入れる。さすが雪の街・横手の知恵である。先日除雪車が出たので朝 6 時ごろ起きて駐車場入り口に盛り上がった雪を除去した。ついでにと思い、車で市内をぐるりと回ってみた。多くの方々が完全武装して家・店・会社の前で雪除けに励んでいた。これが横手の冬の朝の常景なのだろう。逞しさを感じた。

いよいよ次週がクリスマスである。最も家族や友人を教会に招きやすく、広く周知するに相応しい時である。そこで今年はチラシを作成し、新聞に折り込み、また各団体・お店に掲示し置かせてもらうことにした。K 長老がデザインして下さり、業者「イロドリ」に印刷をお願いした。12 月 9 日土曜日の「さきがけ」の朝刊で、4560 世帯に配布された。また、12 日、N 長老に案内していただき、サンサン横手・男女共同参画センターやフレンドール・かつやなど 10 軒ほどを訪問し、チラシを依頼してきた。

一方、市報よこて(15 日発行)の「みでたんしぇ」の欄にもクリスマスの案内が掲載された。さらに教会ホームページも更新され、情報を発信している。そんな中、今度クリスマスに行きます！との声が聞こえてきた。とても嬉しくなる。教会員の一人ひとりがまず礼拝に出席し、そして、チラシを活用するなり、祈るなり、何らかの形でこの営みに繋がって、クリスマスの喜びを共に分かち合いたいと思う。